

キトラ古墳壁画の保存措置方法について

東京文化財研究所 川野邊 渉

1. 現在の石室内壁画の状況

漆喰の状態は、写真1～5で確認されるとおり、経時的に漆喰が消失してきている場所がある。急速に変化していく石室内漆喰を早期に確実に保存していくためには、一刻も早く石室内漆喰を剥ぎ取り、十分な保存環境下で保存修理を行う必要がある。

2. 今後の剥ぎ取り作業について

①剥ぎ取りの時期

温度の高い時期を除く1ヶ月程度、集中的に剥ぎ取るなどの方法により、剥ぎ取りを効率的に実施できるとともに、剥ぎ取った時期による漆喰の状態（色や強度）の差異を少なくすることができると考えられる（図1）。

また、併せて温度の高い時期には数ヶ月間石室を開封しないことにより、人が通年的に出入りすることを抑制でき、カビ等の生物被害を抑制する効果が考えられる。

（剥ぎ取り期間中は、殺菌灯による微生物抑制を図り、剥ぎ取り期間終了後、石室を密閉する際にパラホルムアルデヒド薫蒸を実施するなどの対応が考えられる。）

②剥ぎ取り順序について

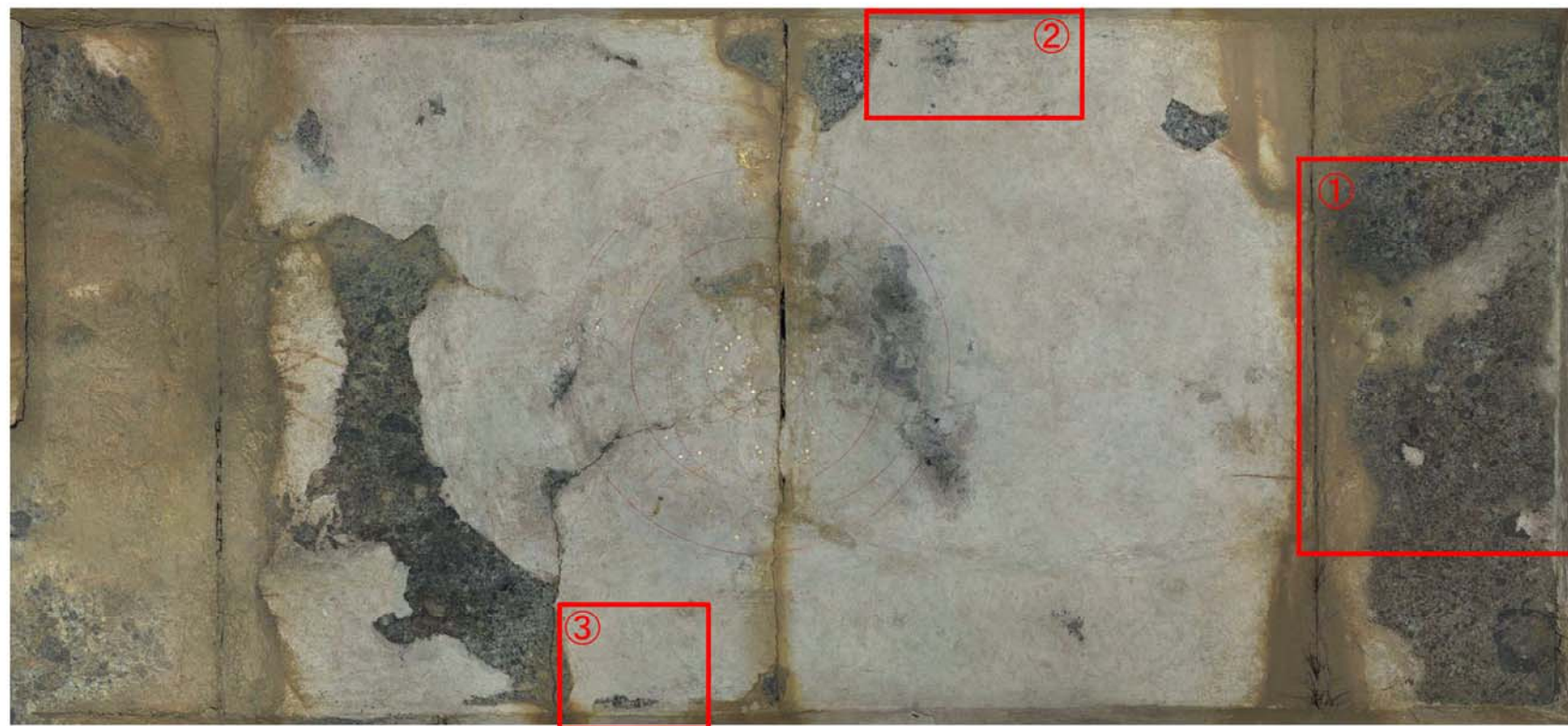
剥ぎ取り順序については、現場における状況を見ながらとなるが、概ね優先すべきと思われる箇所を資料写真6～10に示す。

3. 剥ぎ取った壁画の保存管理について

剥ぎ取った壁画のうち、天井天文図については平成21年2月6日に国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設に移送し、今後、博物館環境下での保存修理を行う予定である。その他の壁画についても並行して修理作業を進める予定であるが、以下の課題がある。

- ・ 朱雀の裏面に確認された泥に転写された朱線・墨線の処置（参考資料）
- ・ 壁面として再構成する際の支持体（石面相当部分）及び漆喰の欠損部分の扱い
- ・ 将来的な保存活用形態に併せた処置方法の検討

2004年4月



2007年1月















2008年2月



写真4

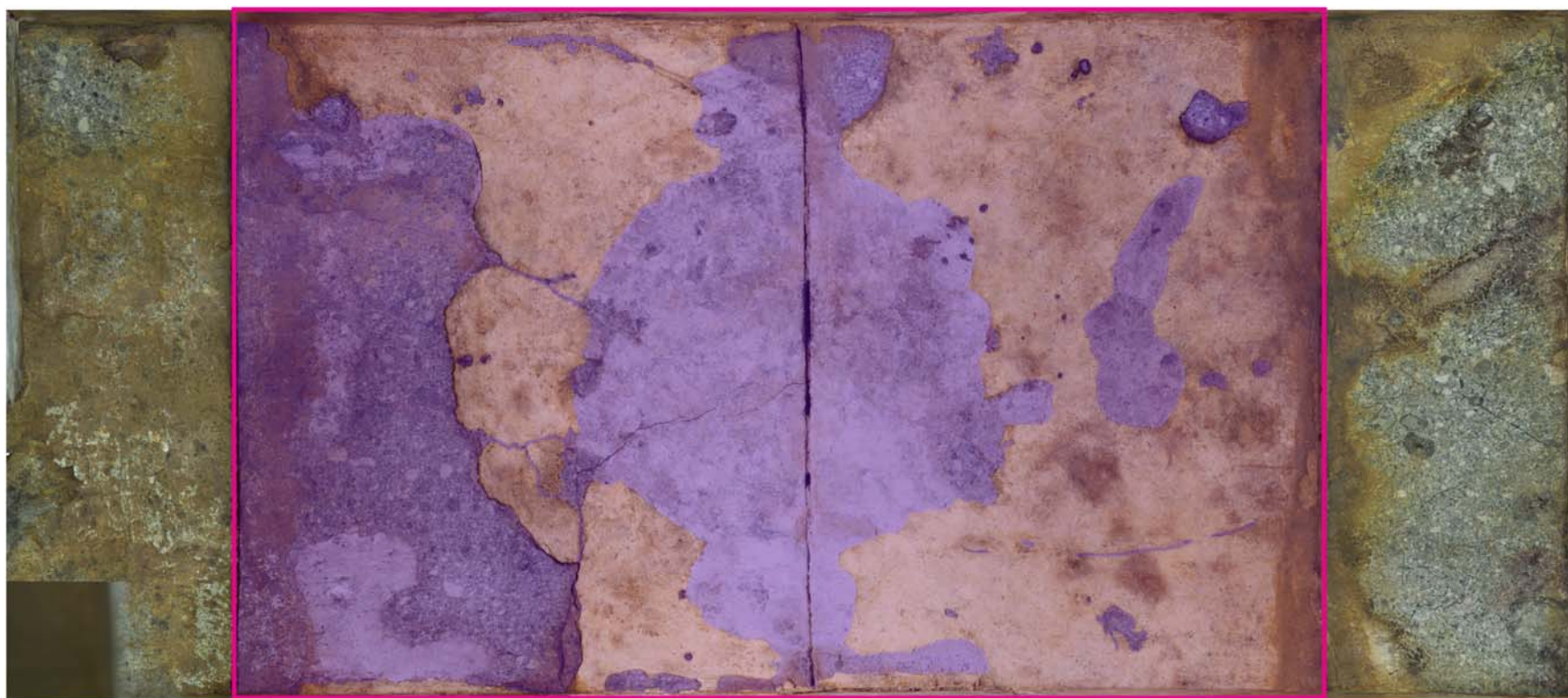
2008年11月



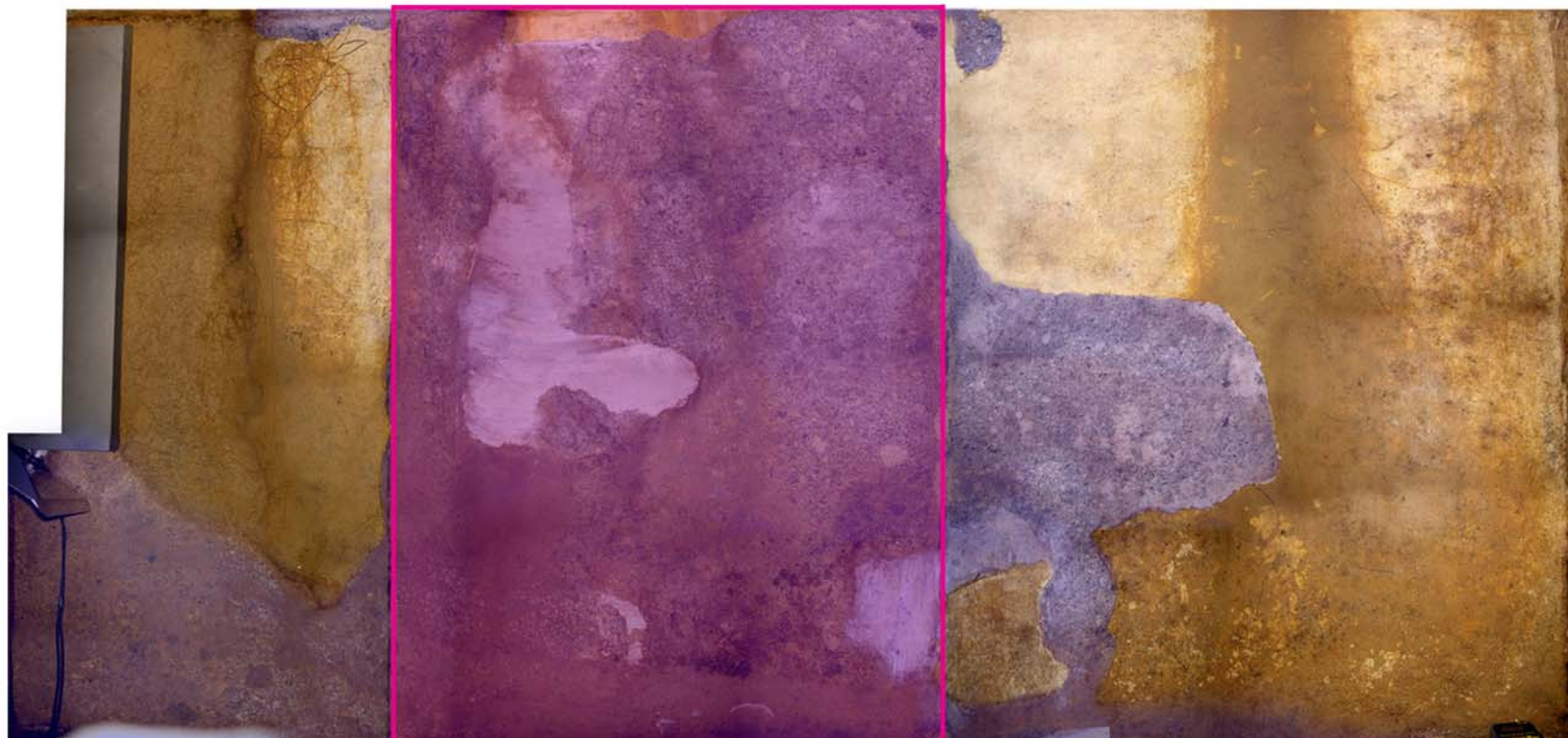
	04年4月	07年1月	08年2月	08年11月
①				
②				
③				



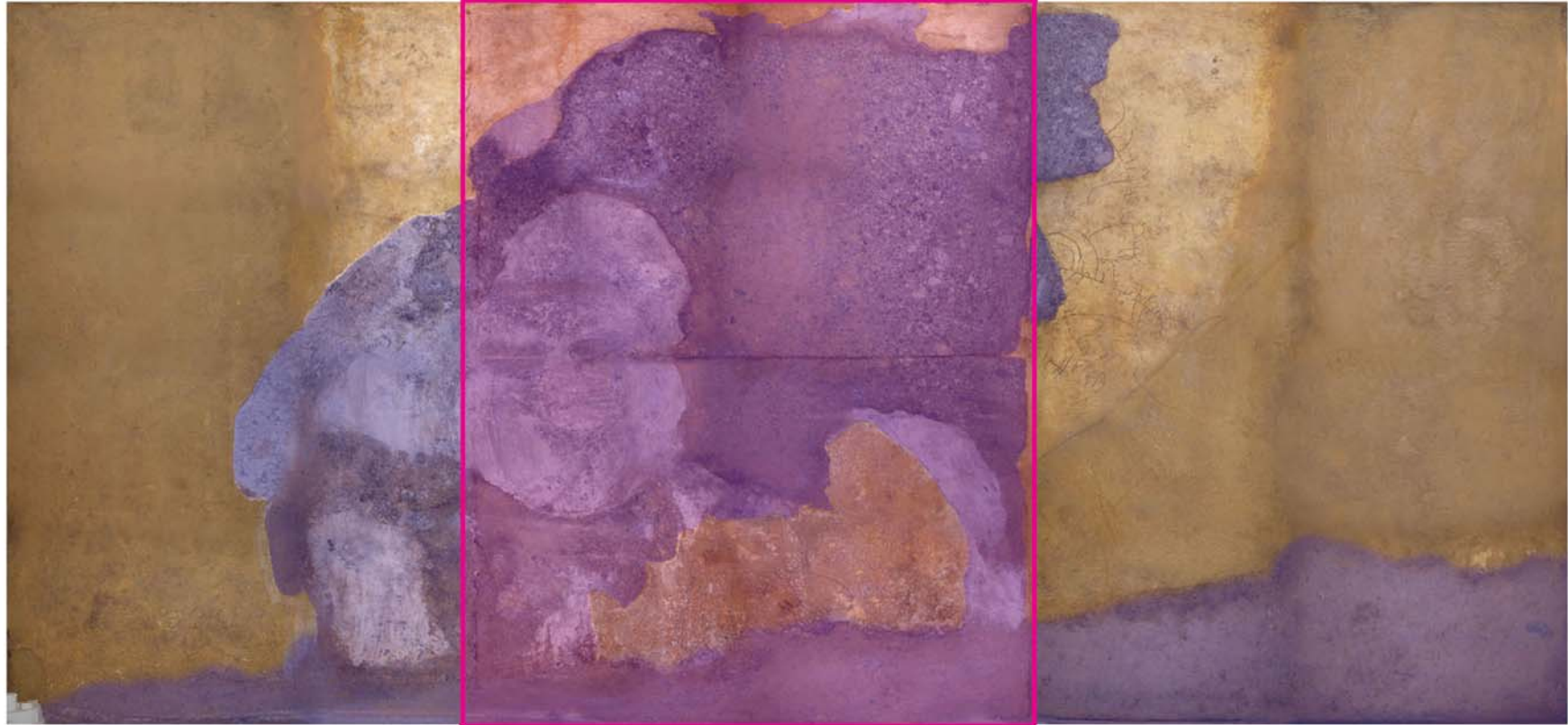
キトラ古墳 月平均地温の変化

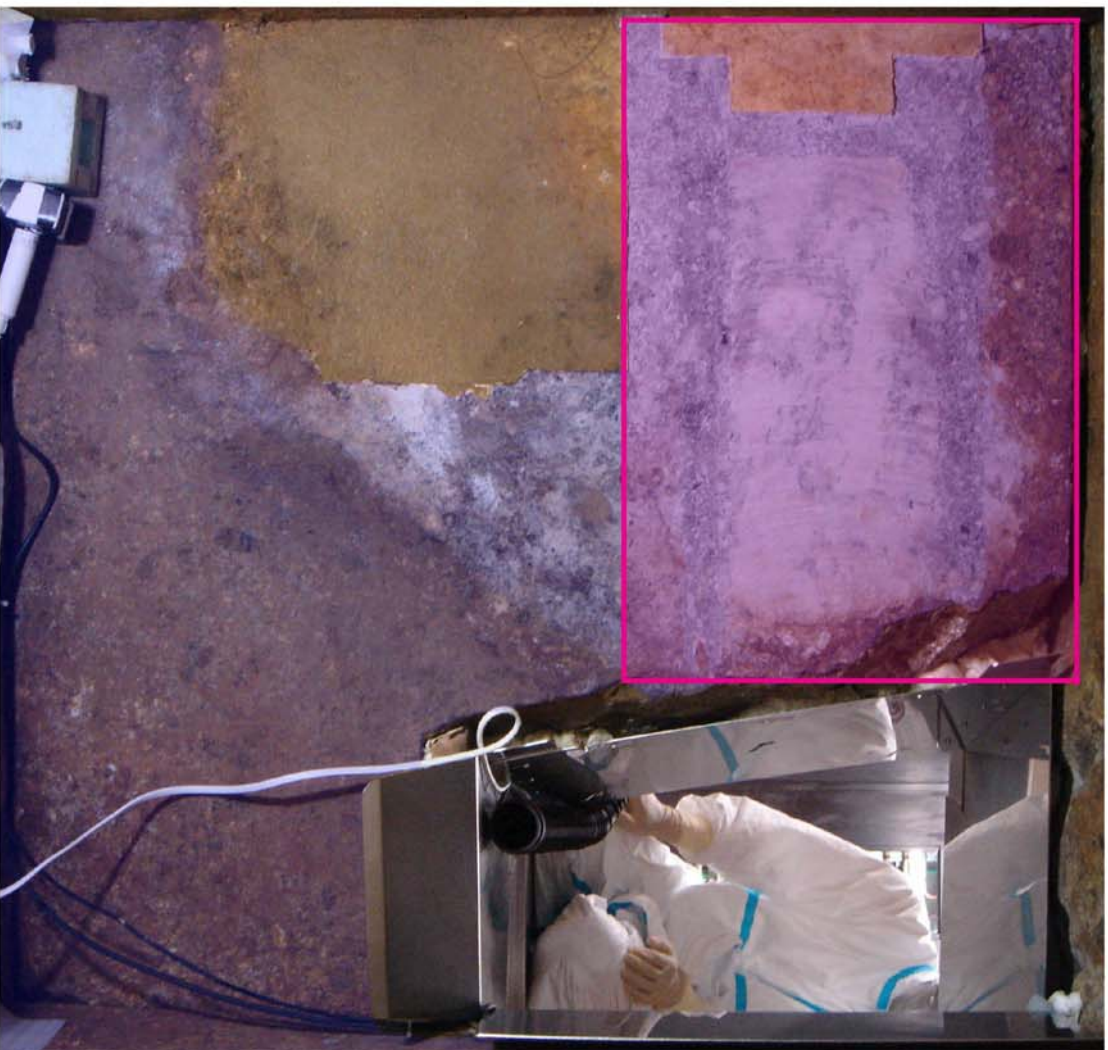


天 井



西 壁





南壁



北壁

キトラ古墳壁画の朱雀の泥の裏側に確認された 赤い顔料と墨線について

<事実>

高松塚古墳壁画仮設修理施設内において、朱雀の裏打ち作業の準備中に、表面の右端に付着している泥の裏側に赤い顔料と墨線が確認された。
(平成20年10月)

<確認された顔料と墨線について>

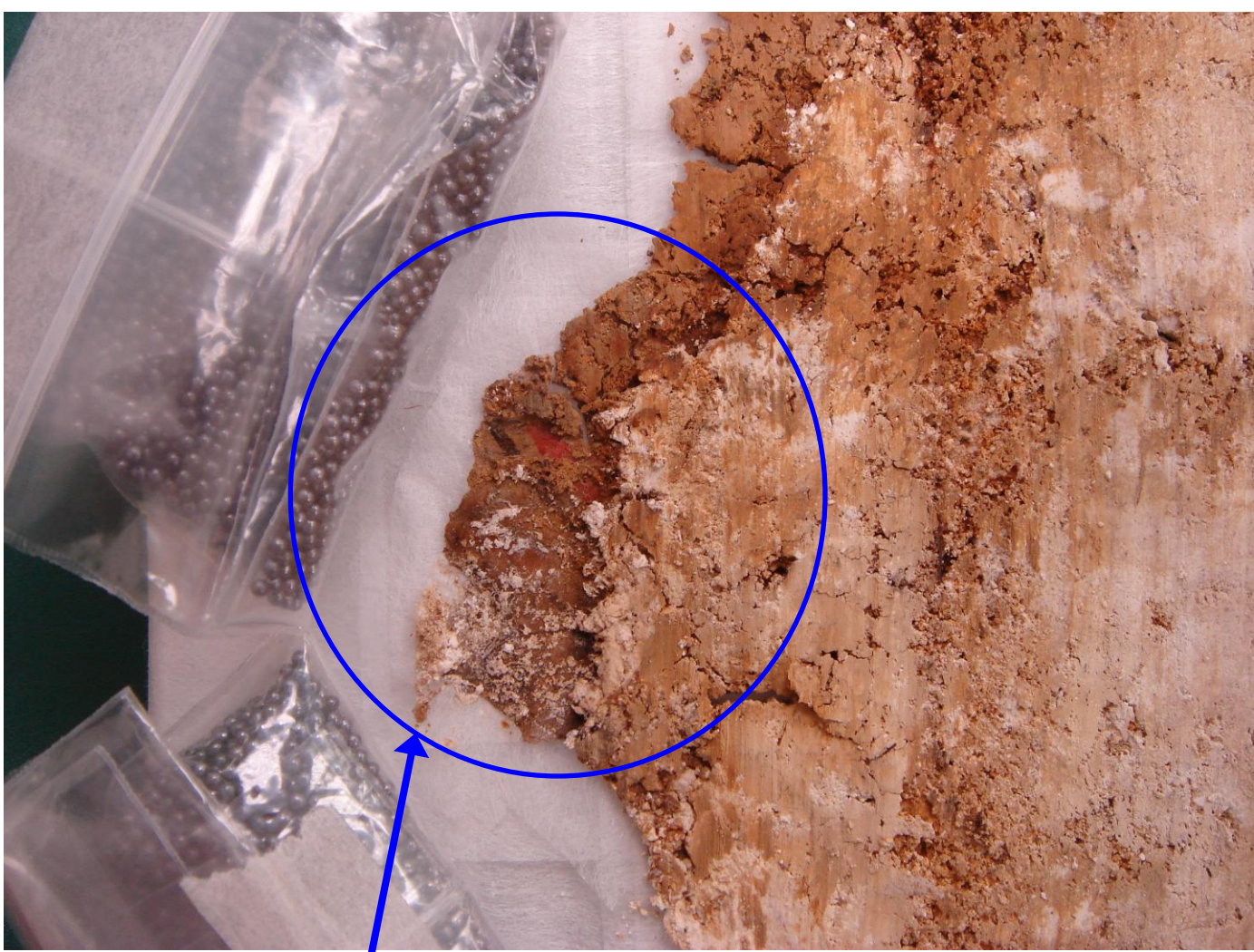
朱雀の赤い顔料と墨線である可能性が高い。
大きさは、5mm×2mm程度。

<朱雀>

- 平成19年2月に剥ぎ取りを実施。
- 現在(平成20年12月時点)は、高松塚古墳壁画仮設修理施設内の保冷庫で保管中。
- 公開については、壁画の状態にもよるが、平成22年を目標に作業を実施。



朱雀(表面)



泥の裏側の赤い顔料と墨線（拡大写真：大きさは5mm×2mm程度）



朱雀（裏側）